

78

自然遺産にも登録されているアンデスの山々に囲まれた空中都市「マチュ・ピチュ」。インカ文明の都市構造を知る上でも大変貴重な世界遺産です。インカ帝国はアンデス山脈に沿うように南北4000kmの長大な領土を支配しており、帝国は“インカ道”と呼ばれる道路を領土の隅々まで配しました。その道を()に乗った物資が、往来し、マチュ・ピチュへの唯一の道もインカ道でした。()に入る語句は、次のどれですか。

1. ロバ 2. ウマ 3. ウシ 4. リヤマ

解説

アンデス山脈のただ中、標高2400mの峰の頂上部に位置するインカの空中都市「マチュ・ピチュ」。16世紀に現在のコロンビアからチリ中部までを支配したインカ帝国は各地に都市を築きましたが、スペイン人によって徹底的に破壊されたため、ほとんどが往時の姿をとどめていません。しかし15世紀半ばに築かれ、100年ほどで放棄されたマチュ・ピチュには、通路や水路が巡らされた住居跡、神殿、大広場、段々畑、墓地などがそのまま残っているため、インカ文明の都市構造を知るうえでとても貴重な遺跡となっています。

マチュ・ピチュは1911年、伝説の黄金郷ビルカバンバを探していたアメリカ人ハイラム・ビンガムによって偶然発見されました。断崖に築かれたこの空中都市からは、尾根に沿うように険しいインカ道が続いています。スペイン人がやってくるまで南アメリカ大陸には車輪や牛馬が存在しなかったため、人々は物資を小型家畜のリヤマの背に乗に載せ、インカ道を通してマチュ・ピチュまで運びました。

インカ道

インカ帝国はその体制を維持するため、領土の隅々に至るまで道路を配しました。それがインカ道です。

インカ道と呼ばれる道路の総延長は4万kmに及び、険しいアンデス山中も迂回せずにトンネルや吊り橋、階段などを造ってつなぎました。道の幅は、すれ違うこともできないほど狭い山中の道から、海岸地帯の広い道までさまざまでした。道には約3kmごとに小屋が建てられ、そこには伝令役も受け持つ飛脚が待機していました。また10～30kmごとに宿場も設けられていました。

正解：4 <正解率78%>